

2024 年度カーボンニュートラル研究助成制度実施報告書

カーボンニュートラル推進特設部会 御中

以下のとおり研究実施報告書を提出します。

基 本 情 報	研究課題名：国内産業連関表の分析によるカーボンプライシングの波及効果に関する研究
	研究代表者 氏名： 勝又 淳司
	【在籍者】 研究科・専攻・学年（学生証番号）： 公共政策研究科 サステナビリティ学 専攻博士後期課程 23Q9904
	指導教員（所属・職・氏名）： 法政大学人間環境学部 職位:教授 氏名:杉野 誠
	共同研究者（所属・職・氏名）：高橋秀肇 公共政策研究科 サステナビリティ学 専攻博士後期課程
	その他 研究分担者：
	研究期間： 2024 年度
年 間 の 研 究 実 施 概 要	【概要】 当助成制度を活用した本研究「国内産業連関表の分析によるカーボンプライシングの波及効果に関する研究」では、電気自動車の排出係数を加味した新しいモデルを作成するために、先行研究のレビューおよび産業連関分析に対する理解を深めることに重点を置いて分析を行った。 また、研究に関する業績として、環境科学会とファッションビジネス学会での学会発表を行った。加えて、本年の助成金により推進した内容を6月の繊維製品消費科学会、9月の環境科学会にて学会発表を行う予定である。 【詳細】 本年度は関連する先行研究のレビューを重点的に行った。産業連関分析において新しい排出係数を加味したモデルを作成する際に、先行研究のレビューと産業連関表への理解が非常に重要になるためである。共同研究・指導教官とともに、入念にモデルに対する理解を深め、先行研究のレビューを行った。予算支出の多くを先行研究レビューのための論文・書籍購入費に充当し、大変充実した研究となった。本研究では、カーボンプライシングが導入された際の短期的な価格上昇率について、消費財や電気自動車等の価格上昇率に関し分析を行った。研究計画書では設定した7月までの先行研究の検討、9月までのシナリオ分析に関しても検討を行えた。今後、特に電気自動車のモデル精緻化を行い、産業連関表による二酸化炭素排出量の分析や、価格上昇率に関する分析を行う。

- ・環境経済政策学会(9月・大阪)に参加し、理論的な研究の理解を深めるとともに、電気自動車に関するシンポジウムに参加し、産業への理解を深めた。これにより当初予定していた「※謝金 自動車産業に詳しい識者へのヒアリング」に対する目的を達成出来たと考える。
- ・環境科学会(9月・東京)にて、消費財に関連する産業連関分析に関して学会発表を行い、消費財(特にアパレル)において炭素排出とトレードオフとなる水利用に関しても有益なコメントを頂戴した。また、当発表は昨年受給した 2023 年度カーボンニュートラル研究助成制度「繊維産業における国際産業連関表分析によるカーボンプライシングの波及効果に関する研究」から関連し、今年の国内の研究助成制度により理解を深めた。12 月に論文投稿を行い、概ね採択される見込みである。
- ・ファッションビジネス学会(11月・大阪)において、代表研究者：勝又の専門であるアパレル産業に関し、関連する発表としてアパレル産業および関連する産業における、炭素排出係数と水利用係数の産業比較・時系列比較・生産性分析について発表を行った。生産性の分析の際に用いる数値について、生産額または付加価値の用い方について有益なコメントを頂戴した。
- ・カーボンプライシングに関するシンポジウム(1月・京都大学大学院経済学研究科・財政学研究会主催)に参加し、カーボンプライシングに関する現在の動向に関し理解を深めた。京都府立大学の川勝健志先生「昨今のカーボンプライシングの動向」からはカーボンプライシングの国内外の政策動向、特にカナダの事例について詳しく説明がなされ、本研究への知見を高めることに繋がった。また、明治大学の倉知真太郎先生からの北欧におけるカーボンプライシングの政策動向について説明がなされ、非常に有意義な発表となった。消費者政策・消費者行動等が専門の関西学院大学・村上佳世先生からは、カーボンプライシングにより消費財の価格が上昇した際の消費者の反応に関する説明を受けた。
- ・2月中旬の出張においては、消費財・消費者関連に専門的な知見のある四国大学の太細専任講師と打ち合わせを行い、消費財関連への知見を高めた。また、民間の再生可能エネルギー施設の視察を行い、カーボンニュートラルに関する知見を高めることに繋がった。
- ・25 年 6 月に繊維製品消費科学会、9 月に環境科学会にて、それぞれ異なる視点で、本研究成果としての消費財に関する研究の発表を行う予定である。電気自動車の排出係数や産業分類に関する分析について、まだ分析を行う必要性はあるものの、継続的に分析を行って学会発表・論文執筆に繋げる。

研 究 業 績	成果発表（学会・論文・研究会等）			
	学会・論文・研究会等の別		タイトル	発行または発表年月
	環境科学会		国内繊維産業における環境負荷軽減に関する研究 ―炭素排出および水質汚染への環境税賦課時の価格変化に着目して―	24 年 9 月
	ファッションビジネス学会		繊維産業における生産性の国際比較 ―GHG 排出および水使用効率による生産性分析―	24 年 11 月
	その他（アピールすることがあればご記入ください。）			
	・上記発表の「国内繊維産業における環境負荷軽減に関する研究 ―炭素排出および水質汚染への環境税賦課時の価格変化に着目して―」に関しては論文化を行い、環境科学会に投稿し、概ね採択が決定している。			
支 出 報 告	費目	計画時金額	実績額	備考
	設備備品費			
	消耗品費	¥ 265,000	¥ 273,361	
	旅費	¥ 200,000	¥ 225,639	
	謝金等	¥ 30,000		
	その他	¥ 5,000	¥ 1,000	
	合計	¥ 500,000	¥ 500,000	